



荒川 義孝 議員

### 令和2年度予算編成に向けた市政クラブの政策提言より

**問** スポーツ振興について、本市としての理念は。

**答** スポーツ等の機会創出や市民交流の場の充実、培ってきた知識・経験・技能を指導や普及推進等、他者

や地域のために発揮していただけるよう取り組んでいる。

**問** スポーツによる地域活性化や、子どもの競技力向上などへの連携といった新たな取組みは。

**答** 本年8月、プロバスケットボールチームのシーホース三河と連携協定を締結し、観光・物産や、伝統文化・産業、人といった地域資源と、プロスポーツ興行というマーケットや発信力、スポーツによって夢を与える力という強味を活かし、互いの持続的な発展を目指している。

**問** スポーツ活動に参加できるきっかけづくりと、スポーツ人口拡大についての取組みは。

**答** 一例とし、スポーツ推進委員を主体にニュー

ースポーツ体験会などを企画・実施している。

**問** ジュニアアスリートの発掘・育成についての考えは。

**答** スポーツ好きな子ども増のため、スポーツとの出会いの場を提供し、夢と感動を共有できるプログラムの企画・実施に重点を置いている。

**問** オリンピック・パラリンピック開催機運の向上につながる取組みは。

**答** 本市出身の選手が出場するようであれば、市民一丸となって応援していく機会を検討する。

**問** 障がい者の一般就労への取組みは。

**答** 就労支援員を中心に面談や面接へ同行し、事業所の開拓等で一般就労につなげ、定着支援にも取り組んでいる。

**問** 農福連携の取組みについての考えは。

**答** モデルケースも始まり、受け入れていただける市内農家の発掘と、障がい者が職場に適応するための農業者との橋渡しや助言を行う「農業版ジョブコーチ」の育成に取り組んでいく。

**問** 障がい者の住まいについての取組みは。

**答** 最近、新たに施設を2カ所開所した。相談、体験の機会、緊急時の対応などの機能を備えた地域生活支援拠点の整備も進めている。



倉田 利奈 議員

### 環境行政について

**問** ごみの立ち当番が原因で町内会を辞めるため、町内会加入率も、今は56.3%と下がっている。また、ごみの立ち当番が、社会情勢の変化により、継続することが困難となっている。立ち当番の改善策は。

**答** 世帯構成や町内会の加入率の低下で、負担が増えていることは認識している。さまざまな方法について、検討を重ねていきたい。

**問** 町内会が立ち当番をやらないと決めた場合、市が責任をもつのか。

**答** 分別ができた上で、町内会から申し出があった場合については、市が責任をもって行う。

**問** 可燃ごみ1人あたりの年間排出量が、高浜市155kgに対し、碧南市は162kgで、同じ焼却炉を使っている碧南市のほうが、多くごみを燃やしている。まず、碧南市にごみの減量化の協力を求めるべきではないか。

**答** 碧南市に申し入れはしていない。各市それ

ぞれが、減量化を進めるものと認識している。

**問** クリーンセンターの維持・管理費等の経費は、人口割で負担しているのが、高浜市民のほうが、費用負担が大きいのではないか。

**答** 費用については、碧南市と協議しながら決めていくものなので、ごみの量の推移を確認しながら検討する。

**問** 高浜市は、可燃ごみの個人年間排出量が碧海5市で一番少ないが、今年7月からごみ袋の無料配布がなくなり、ごみ袋の購入金額も変更された。年間103回ごみを出す場合、碧海5市の1世帯あたりの購入負担額は。

**答** 2～4人世帯の年間ごみ袋の費用は、刈谷市1,030円・安城市1,030円・碧南市135円・知立市1,339円・高浜市2,060円。

**問** 高浜市民の負担が大きいのが、どう考えるか。

**答** 弥富市・津島市・愛西市が高浜市と同程度の価格・ごみ袋の大きさで、それを参考とした。

### 公共施設について

**問** 公共施設複合化の財政効果は。

**答** 金額を示すことで誤解を与えないため、客観的な数字である面積でお答えしている。